R7 楡木小学校　学校通信
No.１８
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年９月５日
文責　余宮

先週末の運動場除草には大変多くの保護者の方々、子どもたちが参加してくれました。心から感謝申し上げます

ヘウレーカ

２学期始業式。活気づく校舎。学校は子どもたちがいて、教師がいて、保護者の方に支えていただきながら、生きているだという実感がふつふつと湧いてきました。

気づくと、５年生けんとさん（仮名）がてきぱきと指示をしながら、縦割り班大掃除を司っています。その反省会では、本人曰く「あまり得意じゃない」司会進行を堂々と進めており、下学年の子どもたちからは憧れに近い信望するまなざしが注がれています。

教室では、さくらさんやかんたさん（仮名）がほうきにぞうきんという従来の道具のみならず、金たわしなどのあらゆる道具を駆使してアルミサッシのさんや枠のよごれまでこすり取っていました。数年来に重なったビニルテープの後もすっきり爽やかに、教室がみるみる輝きを増していきました。

新しいことに挑戦するごとに、大きな成長や良い意味での変化を遂げる５年生。そんな５年生のなりたい自分へ向けたスローガンが「殻破り」。２ 学期初日から、新しい自分への挑戦をいとわない５年生のたくましさに、私はつい心からのエールを送っていました。

ヘウレーカという言葉を思い出しました。

人は圧倒的に社会的な生き物であることを、再三お伝えしています。だから、一見個業に見える自分らしさを培うことも、やはり社会的な活動であると、私は思うのです。

もちろん自分とは何かを孤独にじっくり考えることは、大変有意義な時間です。ただ、そんなときに自分とは何かがわかることは結構少ないのではないでしょうか。むしろ、仲間と今までとは違う活動に取り組んでいる時、今までだったら避けてしまっていた出来事に出合った時、なぜか私自身の何かに気づくことがあります。

ある物体の体積は、押し出した水の体積と同じ、という中学校理科必修の「アルキメデスの原理」を編み出したアルキメデス。その原理の発見には、大変有名な逸話が残っていますよね。王様から純金の王冠であるかを調べるように言われたアルキメデス。重さが同じということは、金に混ぜ物をしているとするならば体積が大きくなっているはず。しかし、溶かしてさいころ状にして体積を比べることもできず、ほとほと困り果てたアルキメデス。

途方に暮れながら、疲れた体を癒すためにひたひたにお湯がたまったお風呂にざぶ～ん。あふれたお湯を見ながら、叫んだ言葉が「ヘウレーカ」訳して「あ～そうだったのか」って感じですかね。あふれたお湯の体積と自身の体積が同じだ！あふれた水を比べれば、さいころにしなくても王冠の体積比べができるではないか！！

思わぬ外部からの刺激によって、今までの行き詰まりが解決することがあるという好例です。むしろ、自分自身に気づくという人類普遍の課題を解決するためには、外部との、環境との、他者との出会（合）いが不可欠なのかもしれません。

翻って、５年生のこともたちは、苦手なことにもいとわない挑戦する心をもち、面倒なこともやってみる粘り強さを発揮して、新しい自分と出会い、大きな成長を遂げています。自分の「殻を破る」ことで、もしかしたら外部に、環境に、他者に自身を柔らかく拓いているのかもしれません。走り続ける５年生の子どもたちに、再度エールを送りたいと思います。